



大学図書館問題研究会京都支部 第 32 回京都支部総会のご案内

大図研京都支部会員の皆様へ

支部総会を下記の要領で開催します。総会終了後には情報交換会を予定しております。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

記

日時：7月24日(金)午後7時半から8時半（総会終了後、同会場にて情報交換会を予定）
会場：季節料理 門（京都市左京区田中門前町8）電話：075-721-3301

会場へのアクセス

京都市バス「百万遍」バス停より徒歩5分（停車する主な系統：3,17,31,65,201,203）



[目次]

大学図書館問題研究会京都支部第32回京都支部総会のご案内	...	1	
大学図書館問題研究会京都支部第32回京都支部総会議案	...	2	
インターネットの海で、安全で適切に溺れる法	西川 真樹子	...	6
中国短期研修体験記	野間口 真裕	...	8
大学図書館問題研究会第40回全国大会のご案内	...	9	
会費納入のお願い	...	10	

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたはURLへお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.so-net.ne.jp（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm

大学図書館問題研究会京都支部第 32 回京都支部総会議案

【第 1 号議案】

2008 年度 (2008.7～2009.6) 活動総括および

2009 年度 (2009.7～2010.6) 活動方針

1. 2008 年度活動総括

(1) 研究交流活動

2008 年度は以下のように、2008 年 12 月および 2009 年 6 月に大図研京都ワンディセミナーを開催し、2 回以上のセミナー開催を謳った年度目標を達成できました。1 回目は電子リソース提供に関わる最新のテーマを取り上げ、2 回目は場としての図書館をテーマにして久しぶりの見学企画を行いました。いずれも当日実施したアンケートで好評をいただいています。

なお、2008 年度はセミナー広報に関わる初の取り組みとして、従来のメーリングリスト等のみならず、京都市内の図書館に案内チラシを送付しました。1 回目は、京都府内の大学図書館、2 回目については、府内大学図書館および京都市内の公共図書館を対象にしています。

1) 大図研京都ワンディセミナー「OPAC による電子リソース検索とオープンアクセスコンテンツの活用」

日時：2008 年 12 月 7 日 (日) 14:00～16:40

講師：伊藤民雄氏 (実践女子大学図書館)

場所：京都市国際交流会館 第 2 会議室

参加費：大図研会員は無料／非会員は 500 円

参加者数：35 名

2) 大図研京都ワンディセミナー『場としての図書館』を形に—京都大学附属図書館ならびに人間・環境学研究科総合人間学部図書館の例—

日時：2009 年 6 月 13 日 (土) 13:15～16:00

案内兼発表者：原竹留美氏 (京都大学人環・総人図書館)

山崎千恵氏 (元京都大学附属図書館、現人環・総人図書館)

場所：京都大学附属図書館および人間・環境学研究科総合人間学部図書館

参加費：無料

参加者数：38 名

(2) 支部報

発行期日の遅れは生じましたが、所定の号数を発行しています。セミナー等の感想や参加報告を掲載し、セミナー等に参加できなかった支部会員への情報提供をはかるとともに、「本の紹介」等のシリーズ記事も復活させています。また、寄稿については、会員はもとより非会員からも幅広く得ることができました。

今年度、発行した支部報の目次は、次のとおりです。

1) 支部報 No.265(2008/08/15 発行)

* 大学図書館問題研究会第 31 回京都支部総会を開催しました

- * 2007 年度活動総括および 2008 年度活動方針
- * 2007 年度決算案および 2008 年度予算案, 会計監査報告
- * 2008 年度大学図書館問題研究会京都支部役員
- * 大学図書館問題研究会第 31 回京都支部総会 議事メモ・補足事項
- * 大図研京都ワンディセミナー「大学図書館と著作権」参加報告(宮嶋牧子)

2) 支部報 No.266(2008/10/15 発行)

- * 京都ワンディセミナーのご案内
- * 全国大会参加報告 その 1 参加しないとわからない! 全国大会とは。
(山下ユミ)
- * 支部委員挨拶
- * 全国大会参加報告 その 2 第 39 回全国大会(福岡) 全体会での京都支部からの発言について(赤澤久弥)
- * 大学図書館問題研究会忘年会開催のお知らせ

3) 支部報 No.267(2008/12/15 発行)

- * 新春合同例会のご案内
- * 第 10 回図書館総合展参加報告: 全図書館関係者が参加できる一大祭典へ
(佐藤翔)
- * 第 10 回図書館総合展報告: 総合展の舞台裏(池田貴儀)
- * 大図研京都数珠つなぎ(長坂和茂)

4) 支部報 No.268(2009/02/15 発行)

- * 大図研京都ワンディセミナー開催報告
- * 大図研京都ワンディセミナー「OPAC による電子リソース検索とオープンアクセスコンテンツの活用」参加報告
 - 電子リソースの時代に大学図書館がやるべきことは?(筑木一郎)
 - 電子リソースの活用を考えるーワンディセミナーに参加して(村井正子)
 - 実践女子大学・短期大学図書館の事例と DOAJJ について(寺升夕希)
- * 本の紹介 第 6 回「和本入門: 千年生きる書物の世界」(赤澤久弥)

5) 支部報 No.269(2009/04/15 発行)

- * 大図研京都ワンディセミナー開催のご案内
- * 『滞在型図書館』を目指して(大図研近畿 4 支部新春合同例会「公共図書館の運営と施設ー田原市中央図書館を例に」(森下 芳則氏) 参加報告)(上村孝子)
- * 図書館ニュースブログ『カレントアウェアネス・R』の舞台裏(上山卓也)
- * 本の紹介 第 7 回 統計学を学ぶ(山田裕子)
- * 支部報 No.268 に関するお詫び
- * 異動 / 退職に伴うアドレス / 住所変更のご連絡のお願い

6) 支部報 No. 270(2009/06/15 発行)

- * 大学図書館問題研究会第 32 回京都支部総会のお知らせ
- * インターネットの海で, 安全で適切に溺れる法(西川真樹子)
- * 中国短期研修体験記 (野間口真裕)
- * 大学図書館問題研究会第 32 回京都支部総会第 1 号議案
- * 大学図書館問題研究会第 40 回全国大会のご案内

なお、現在、支部報のバックナンバーを国立国会図書館への納本や電子化により、適切に保存していく方策を検討しています。また、支部報に掲載された原稿は従来から寄稿者の希望により支部サイトで公開していますが、新たに機関リポジトリ等への掲載指針を策定し公表しました。

(3) ホームページ、メーリングリスト、メールマガジン

ホームページでは、イベントのお知らせや、支部活動の記録等を定期的かつ迅速に掲載しています。また、支部報目次発行年月日の遡及入力(除 No.151~169)を完了するとともに、執筆者名を記載しました。2009年6月22日現在、6,067アクセスを得ています(アクセスカウンター設置:2006年8月22日)。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.60(2008年9月1日)から no.81(2009年6月25日)を発行しました。支部委員会議事録、支部企画案内等を随時送信することで支部活動をお知らせするとともに、月1回のイベント案内を定期的に発行し、好評を得ています。

(4) 組織活動

会員数は、年度末現在67名で、年度当初と同数です。会員数変動の内訳は、新規入会者5名、退会者5名です。定年退職に伴う退会がありながらも、新規会員を得ることができています。2008年度は勧誘活動の一環として、1.(1)のセミナー案内チラシ送付にあたり、入会案内を併せて送付しました。また、新入会員受付時の対応をマニュアル化し体制の整備をはかりました。

加えて、支部委員会の連絡および情報共有体制の強化のため、フリーのWebサービスを利用して、支部委員会連絡用メーリングリストの移行と運営マニュアルの共有化を実現しました。

(5) 財政

昨年度に引き続き、支部委員会の重点課題として、会費納入率の向上に努めました。結果、継続課題であった長期滞納者0名を達成することができました。また、所定の会費徴収スケジュールに則った計画的な督促業務を行うことによって、未納率を下げる事ができました。各年度の未納率は次のようになっています。2006年度以前0%、2007年度2%、2008年度12%、2009年度68%。

2. 2009年度活動方針

(1) 研究交流活動

会員のニーズに応じた研究活動の充実をはかり、会員の専門的・力量形成に役立てるため、セミナー等を3回程度、開催します。また会員間のコミュニケーションの促進や研究交流活動の周知等のため、支部報の発行のほか、ホームページの充実、メーリングリストの運用、メールマガジンの発行について、一層の努力をします。さらに地

域における積極的な参加を促すため、京都の大学図書館等、関連する組織への広報も継続していきます。

(2) 支部報

今年度も継続して、定期発行と正確で読みやすい誌面作成に努めます。自己啓発や会員間交流の場としての支部報のみならず、より多くの会員に「発表の場を提供する」支部報となるよう努力します。

(3) ホームページ、メーリングリスト、メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすくかつ迅速に提供するため、ホームページを随時更新するとともに、メールマガジンを定期的に発信するように努力します。また会員間コミュニケーションの促進のため、ホームページの会員リンクやメーリングリストを引き続き提供します。なおホームページ維持費の節減やコンテンツ拡大に対応するため、プロバイダーの変更等の方策を検討します。

(4) 組織活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。セミナーをはじめあらゆる機会をとらえ、関連組織への広報の実施と入会の勧誘に務めるだけでなく、魅力的な会報づくりや有益なセミナーの開催、会員交流の場の提供等、充実した支部活動を行います。

(5) 財政

所定の会費徴収スケジュールに従い、個々の会員へ個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を今年度も引き続いて行うことで、会費納入率の向上に引き続き努めるとともに、長期滞納者を作らないため、滞納の兆候が見られた段階での積極的な督促を行います。また支部活動費の削減・効率化のため、2. (3)のとおり、経常支出であるホームページ維持費の見直しを行います。なお、節約の結果として積み立てられた予備費を効果的に活用する方策として、セミナーの開催数の増加等、研究交流活動の一層の充実策を検討します。

(以下の議案は当日配布します)

【第2号議案】2008年度決算報告活動総括 及び 2009年度予算及び会計監査報告

【第3号議案】2009年度支部役員選挙

インターネットの海で、安全で適切に溺れる法

西川 真樹子

1. はじめに

本稿では、私がここ2年間補助者として担当している、京都大学全学共通教育科目「情報探索入門」の1コマの「インターネット演習」を、課題作成者の視点から取り上げます。「情報探索入門」とは1998年から京都大学で開講され、複数の学部・研究科の教員が講義とそれに対応した演習を交互に行い、その演習の補助者として図書館職員が参加する授業です。情報探索入門については、諸先輩方が多くの論文で詳細を報告・検討しておられるので、ここではその詳細には触れません。

13回のリレー講義・演習のうち、インターネット演習は11回目にあたります。受講生に課せられるのは、それまでのリレー講義・演習で得た情報収集方法を踏まえ、図書館職員(3, 4名)が考案した5-10種類の課題のうち、興味をもったものを選び、検索エンジンや各種データベースを駆使して回答することです。

ウェブ上で情報が得られるのは便利ですが、検索ノイズが発生したり、信憑性のない情報が多く存在したりすることや、少し古い情報だと見つからない、画像など文字情報でないと検索ができないなど、問題点も多く存在します。また、検索エンジンを使う際には、キーワードひとつの違いが検索結果を大きく左右することや、検索エンジンに引っかかってこない情報も多く存在します。本演習を通じてこのようなウェブの利点と欠点・ウェブ上の情報を検索する際の注意点などを理解してもらうのが目的です。

しかしながら、上記のような目的を達成するための課題作成及び採点は毎年、困難を極めます。以下では、その作成要領について詳述します。

2. 問題作成のポイント

- ・社会統計…統計値を探し出すもの
- ・手続き/法律…生活上発生する手続きや根拠となる法律などを探させるもの
- ・新聞/ニュース…少し古くなるとウェブ上で見つけにくくなる情報の検索
- ・キーワード連想/工夫…キーワードや検索方法を工夫しなければならないもの
- ・自然科学/医療系…医療系はウェブ上にノイズ・不正確な情報の多い分野
- ・プラン…Web上の情報を駆使して、何らかのプランを立てさせるもの

例：愛知万博へ行く旅行プランを立てさせる問題

おおよそ、1, 2問ずつを以上の分野からまんべんなく作成します。社会統計や法律分野については、検索エンジンではひっかからず、官公庁や地方自治体や関連団体が作成しているデータベースでしか探せない情報から作ります。新聞社が運営しているニュースウェブサイトでは、過去1年間前後のニュースを見ることはできますが、それより前のニュースは概ね削除されてしまいます。ですので、2年位前のニュースで、大学で購入しているデータベースで検索できるニュースから出題します。しかし、新聞データベースは同時アクセス数が限られていることが多く、100人近くが受講するこの演習で、数人しかアクセスできないデータベースからしか得られない情報を回答とするのは疑問があるので、そのデータベース以外からも情報を得られるような問題にします。

3. 良問とは？

情報探索入門の授業が開講された当初より、インターネット演習の形式はほぼ変わっておらず、毎年の担当者が日頃の担当業務やそれまでの知識や経験を駆使して、問題を作成してきて

います。毎年、「良問を作ろう!」という意気込みで取り組みますが、そう容易く出来るものではありません。ここで代々担当者に伝わる「良問」の極意をご紹介します。

- ・ウェブ上では正解がノイズに埋もれて正解が得られない課題
(図書、特に教科書では簡単に見つかるような問題)
- ・正解自体が何通りも考えられるような課題
- ・正解を探すのではなく、自分のプラン(旅行プラン)を立てるような問題
- ・ある一定の期限を過ぎると、ウェブ上では探せなくなる新聞記事
- ・文字情報ではない、画像や動画を探させる問題
- ・検索エンジン“Google”では見つからないもの(データベースに入っている情報など)
- ・日本国内のサイトで探すと見つからないが、海外サイトで調べると、比較的簡単に見つかる問題(キーワードを英語にして調べないとならないもの)
- ・手続き/法律の「根拠」を探す問題
- ・キーワードを工夫しなければならない問題

では、ここでインターネット演習担当教員である薬学研究科教授金子周司先生も太鼓判を押す伝説的な「良問」をご紹介しますので、一度挑戦してみてください。

Q:「京都市中京区にはいくつの町名が存在するか調べてください。」

この問題は2003年に出題されたものです。出題当時、京都市中京区や郵便局に問い合わせたそうですが、正解はいまだに定まっていません。理由は、同じ町名が複数存在したり、ひとつの町が2つの学区にまたがっていたりするなど、京都市独特の事情からくるようです。受講者のうち23名が挑戦し、正解は2名のみという難問でした。

A:“498”または“497”

[根拠1] ウェブサイト「京都市情報館」の京都市中京区統計資料

『地域統計要覧』の国勢統計区別統計資料(PDF)の中京区では公称町名は497

[根拠2] 日本郵便ウェブサイトの郵便番号検索

「京都市中京区」を検索すると、498件の郵便番号(町)がヒット

4. まとめ

ここまで京都大学の情報探索入門で行っているインターネット演習について述べてきました。本稿が当演習の毎年の担当者の覚え書となるだけでなく、同様の情報リテラシー教育を行っている他機関の担当者の方々の参考となれば幸いです。また、本稿は当演習を担当してこられた諸先輩方によるところが多く、この場でお礼を申し上げるとともに、今後より一層、当演習が充実したものになることの決意表明としたいと思います。

5. 参考文献 (著者順)

- 1) 金子周司「『情報探索入門』2002より」(『静脩』39(2)), 2003, p1-5
- 2) 川崎良孝編集『大学生と「情報の活用」: 情報探索入門』(京都大学図書館情報学研究会, 1999)
- 3) 後藤慶太「学術情報リテラシーの実際—京都大学全学共通科目「情報探索入門」—」(『情報: 大阪府立大学総合情報センター年報』7, 2001, p.59-69)
- 4) 後藤慶太「≪特集: 平成12年度日本薬学図書館協議会研究集会 テーマ: 21世紀における薬学図書館の役割—利用者教育・電子情報」事例発表: 情報リテラシーと図書館—「情報探索入門」の試み」(『薬学図書館』46(1), 2001, p13-17)
- 5) 慈道佐代子「全学共通科目「情報探索入門」の試み—図書館の役割について—」(『大学図書館研究』54, 1998, p.43-54)

- 6) 慈道佐代子「情報リテラシー教育への参画」(第17回大学図書館研究集会運営委員会編『第17回大学図書館研究集会記録 学術情報提供と次世代図書館サービス—大学図書館の今後の戦略—』, 2000, p.104-108)
- 7) 呑海沙織「京都大学全学共通科目「情報探索入門」—図書館員の情報リテラシー科目への参加」(『大図研論文集』22, 1999, p.17-24)
- 8) 山本千恵「図書館員が学ぶ学生と研究生活と図書館—『情報検索入門』の演習を作る」(『大学の図書館』26(9), 2007, p.146-148)

にしかわ まきこ (京都大学附属図書館情報サービス課参考調査掛)

中国短期研修体験記

野間口 真裕

昨年の秋の朝、会議で吉田キャンパスに出勤しようと思っていた私にあるメールがきました。「海外」という件名のメールで「海外研修に応募してみないの?」という内容でした。京都大学には海外短期研修という、業務に関連した内容でかつ自発的に海外の図書館を視察に行きたい職員に対して補助をだしてくれるというプログラムがあります。自分もいつかは行きたいと思いつつ、英語の不自由さや業務の忙しさで二の足を踏んでいた研修でした。結果的に附属図書館の年の近い職員三人を引きずりこんで四人で行くこととなりました。

各館へのアポイントメントをとる間に皆で部課長との面談や出張計画書の提出をしたり、海外渡航経験のない職員はパスポート取得や旅行準備をしたり、航空券・ホテルの予約とすることが山のように。そんなこんなでやっとの思いで中国へ。

まずは上海へ。上海交通大学図書館と上海図書館を訪問しました。上海交通大学図書館は昨年新館ができたばかりの図書館で近代的でサービス重視の図書館でした。特にサブジェクトごとに図書・雑誌が1フロアに展開されており、すべて開架で配架されていることが印象的でした。コンビニエンスストアが併設されており、パソコンも使えて私が学生であれば入り浸りそうな便利な図書館でした。午後は上海図書館へ。研究所と合体した超巨大公共図書館です。ニューヨークパブリックライブラリーに行ったときと印象がかぶりました。とても多くの利用者がおり、椅子は一杯でした。ここはパソコンスペースや多国籍資料や専門資料があるだけでなく、催事スペースが併設するなど市民が集まりやすい場所となっていました。

次に北京へ。中国国家図書館・北京大学図書館・CALIS(中国高等教育文献保障系統・中国の大学図書館ネットワーク)管理センター・清華大学図書館を訪問しました。中国国家図書館で私たちに特に印象深かったのは数字資源部の取り組みでした。電子リソースの提供方法としてタッチパネルの端末で電子化された新聞が読めるようになっていたり、電子ブックリーダーを貸し出していたりしていました。Webでの取り組みも大きく展開されており、ホームページ専門の職員の常駐や国家図書館のアドオンの自館での開発、開発中のようでしたが中国版アメリカンメモリーやカレントアウェアネス、ウェブアーカイブ、機関リポジトリなど多くの事業を次々と立ち上げていることも、継続できるのか…という懸念もありますが大きな驚きでした。何より私たちに驚かせたのは王主任という存在でした。まだお若くみえましたが、数字資

源部のトップで、図書館の職員というより実業家やベンチャー企業の社長のようなものでした。研修の話をした際『ぜひ合併で!』といわれた言葉が印象に残っています。北京大学図書館とCALIS管理センターでは各代表の方と会議室のような場所で質疑応答。北京大学図書館副館長は忙しそうな状況にも関わらず、私たちの矢継ぎ早の質問に次々と回答いただき、CALISの担当の方のプレゼンテーションは中国の図書館界を引っ張っていくという意志を強く感じました。北京大学は歴史を残した中国風建築物が多く、中国の中でも自由な校風のようなようです。実際、教員や学生たちからもそのような雰囲気を感じました。清華大学図書館はサブジェクトライブラリアンやサービス担当者、目録担当者などから説明いただき、全体としては副館長が質疑応答、ツアーをしてくださいました。清華は北京大学とは違いアメリカの大学のようなものでした。最終日ということもあり、帰りはくたくたでしたがOCLC北京事務所の前に行ったりもしました。図書館職員同士の出張ならではですね。

帰国後はお礼状書きや出張報告書や報告会、ほかに若手の勉強会での発表など(この原稿も!)、たくさん事後仕事もありましたが、ようやく落ち着いてきているところです。

個人的にこの研修は近くて遠い海外中国の図書館事情を知ることができただけでなく、日本のサービスを考える刺激的でよい機会でした。ご協力いただいたたくさんの皆さまへの心よりの御礼と大失敗にならずに済んだ安堵の気持ちと中国の図書館員に負けないようにとのやる気を胸に。とりとめのない記となりましたが京都支部の皆さまにご報告まで。

出張報告書は本学機関リポジトリで公開しています。ご興味ございましたらそちらもご覧ください。

<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/77706>

のまぐち まさひろ (京都大学工学研究科総務課図書掛)

大学図書館問題研究会 第40回全国大会のご案内

今年の全国大会は、次のとおり、群馬で開催されます。奮って、ご参加ください。

支部委員会からも参加しますので、もし参加に際して不安を感じる点などがございましたら、お気軽に支部委員会 (dtkk@rg7.sonet.ne.jp) まで、お問合せください。

日時：2009年8月22日(土)～24日(月)

場所：群馬県前橋市・前橋テルサ

日程は、おおむね次のとおりです。

22日(土) 記念講演 講師：水野真由美氏 (俳人・古書店「山猫館書房(*1)」店主)

(*1) <http://members3.jcom.home.ne.jp/yamaneko-kan/>

23日(日) 課題別分科会 (大学図書館史、図書館経営、情報リテラシー、図書館システム、機関リポジトリ、出版・流通、利用者サービス、広報)

24日(月) 主題別分科会

詳しくは、大学図書館問題研究会のWebサイト (<http://www.daitoken.com/>) をご覧ください。

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2009年度(大図研会計年度2009.07 - 2010.06)に入っておりますので、2009年度の会費の納入をお願い致します。また、2008年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

健全な支部運営のために、是非とも会費納入率の向上にご協力ください。

会費は、¥7,000 (大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000)です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。(振込みには、先日送付した振込用紙をお使いください。)

郵便振替

振替口座番号 01090-4-5904

大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は下記連絡先へお問い合わせください。

連絡先：大学図書館問題研究会京都支部

E-mail：dtkk@rg7.so-net.ne.jp

もしくは

支部委員(組織・財政担当) 渡邊伸彦

〒606-8317 京都市左京区吉田本町 京都大学附属図書館資料管理掛気付 渡邊宛

電話：075-753-2647 まで。